



国際交流 - インターナショナル・サマーキャンプ - 祝!! コンペティション1位



第5学年 兵頭 美穂さんと小林 倫子さん

Contents

02 Topics

- ・楠葉学舎に第 4 学年専用の自習室完成
- ・平成 27 年度私立大学等改革総合支援事業に採択

02 国際交流

- ・【学生短期海外研修】四川大学 華西口腔医学院
インターナショナル・サマーキャンプ
- ・【学生短期海外研修】南方医科大学 口腔医学院
- ・【協定校学生受入】アジア 3 大学 口腔医学院
- ・【学生短期海外研修】シドニー大学 歯学部
- ・【外国大学との交流】山西医科大学 学長訪問

03 平成 27 年度 子ども大学探検隊

04 平成 27 年度 オープンキャンパス

05 教授就任

- ・解剖学講座 竹村 明道
- ・口腔解剖学講座 田村 功
- ・細菌学講座 王 宝禮
- ・口腔衛生学講座 三宅 達郎

11 行事報告

- ・平成 27 年度 医療機器安全管理講習会
- ・平成 27 年度 医療安全講習会
- ・平成 27 年度 院内感染対策講習会
- ・第 23 回 大阪歯科大学公開講座(天満橋講座)
「近未来の歯科治療 デジタルデンティストリー」
- ・平成 27 年度 第 6 学年父兄会

- ・平成 27 年度 地方父兄会(兵庫県)
- ・平成 27 年度 体育祭、第 47 回 大学祭(楠葉祭)
- ・平成 27 年度 解剖体遺骨返還式
- ・ひらかた市民大学 2015
- ・平成 27 年度 実験動物慰霊祭
- ・平成 27 年度 自衛消防訓練
- ・平成 27 年度 医療事故防止のための相互チェックについて
- ・平成 27 年度 文部科学省 医学教育等関係業務功労者の表彰について
- ・平成 27 年 教職員忘年慰労会

15 学位・博士(歯学)授与報告

16 平成 27 年 秋の叙勲受章者

16 寄贈

16 追悼

16 人事

17 あとがき



インターナショナル・サマーキャンプ 2015 記念写真

= Topics =

◆楠葉学舎に第4学年専用の自習室完成

去る平成27年9月24日(木)、楠葉学舎2号館1階の旧駐輪場跡地に第4学年の学生を対象とする自習室が新たに完成し、同月30日(水)午後2時から、川添堯彬理事長・学長以下本学関係者と、このたびの工事の設計監理・施工業者である(株)信和工務店各位が出席して引き渡し式が行われました。

この自習室は、新駐輪場完成後の8月初旬に着工し、個別ブース型の自習室(47席)とグループ学習室(54席)の2室を備えています。

近年、本学では「五つの力の目標」の一つである「学力の向上」に資するため、さらには学生からの要望もあり、学年によらず学生一人ひとりが存分に勉学に打ち込むことのできるよう、楠葉・天満橋両学舎において段階的に自習室を整備するなど、学習環境のより一層の充実に努めてきました。4年生の学生各位にはこの真新しい自習室で大いに自学自習に励み、共用試験CBTをはじめ、これから本格化する重要試験に着実に合格していかれるよう期待しています。



◆平成27年度私立大学等改革総合支援事業に採択

本学は、文部科学省の平成27年度私立大学等改革総合支援事業・タイプ1「教育の質的転換」を申請し、このほど採択をいただきました。

この事業は、教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援することを目的として実施されるもので、本学は、その支援対象校に選定されるとともに、同事業の一環である「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」においても採択を受けました(「アクティブラーニングのためのクリッカー

等の整備」)。

本学が採択されたタイプ1は「建学の精神を生かした大学教育の質向上」への取り組みが評価対象となっています。平成23年の創立100周年を機に、本学は創立者の遺訓「博愛公益」を「建学の精神」に取り入れ、学部教育の改善・充実に特に注力し、全学をあげて諸改革を進めてきました。今年もIR室の設置やオフィスアワーの実施など、新たな取り組みをスタートさせています。

今回の採択を弾みとして、本学はこれからも究極の目標「博愛公益」をめざし、着実に改善・改革を実行していきます。

国際交流

学生短期海外研修

四川大学 華西口腔医学院 インターナショナル・サマーキャンプ 2015.7.5～13
祝!! コンペティション1位

四川大学 華西口腔医学院が国際交流の一環として、大学をより詳しく知ってもらうために、2012年から毎年、中国各地の大学並びに各国の提携校から歯科学学生を招待し、講義(歯内療法)並びに実習(ファントム実習)を中心に大学施設、附属病院施設の見学を実施している。

今回、日本からは本学が前年度に続き、2回目の参加となり、5年生小林倫子さんと兵頭美穂さん、口腔外科学第二講座 窪寛仁講師を派遣した。

なお、現地では協力者として廖文博士(本学歯科矯正学講座講師(非常勤))にサマーキャンプ期間中、同行していただいた。

また、日本国内からは、日本歯科大学、東北大学歯学部、その他の外国からは、アメリカ、オランダ、タイの大学が参加し、交流を深めた。



インターナショナル・サマーキャンプの特徴は、

1. 海外の学生に対して現地の学生が、つきっきりでサポートする。
2. 自身の大学についてのスライドショーを作成し、プレゼンテーションを行う。
3. インターナショナル・サマーキャンプの終盤にコンペティションを開催する。

が挙げられ、本学が実施する他の学生短期海外研修とは、一味違う内容となっている。

【研修内容】

コンペティションは、エントリーした他国、中国国内の学生で行われ、課題は、縫合、顎顔面部に包帯を巻く、歯の外形を書く、CPR、編み物、豆運びであった。

参加学生は、日本で縫合等の練習をし、現地では、現地の学生に教えてもらったり、パンダのぬいぐるみで、包帯を巻く練習をしたりと努力を重ねた結果、見事栄冠の1位を獲得した。

【参加学生の感想】

全て英語による歯内治療の講義では、専門的な英語を学ぶよい機会となったとの報告が参加学生からあった。

実習では、窩洞形成、支台歯形成、ルートプレーニングなどを行い、なかでも、パーシャルデンチャーのクラスプ部を、経済的・時間的問題から、鑄造せずに、レスト部を含めてワイヤーのみで作製するといった手法は、日本には見られないものであったので驚いたが、システムや技法などについて、他国の学生と議論できることが、とても刺激的で面白かったと感想があった。

【最後に】

本学から参加した兵頭さんと小林さんは、研修終盤に行われた大学対抗の技能コンテストで1位の栄冠を得た。参加学生にとって、中国人学生との交流や親睦を通して日本との教育の違いを感じ、中国の歴史や文化に触れることができ、日本では得ることができない体験ができ、サマーキャンプへの参加が貴重な学びの機会になった。

学生短期海外研修 南方医科大学 口腔医学院 2015.7.18 ~ 24

学生6名(4年6名)/引率:向井助教(有歯補綴咬合学講座)

研修は特別講義・臨床見学を主体としたプログラムで、学生も積極的にディスカッションに参加するなど、たくさんのことを吸収していました。また、ウェルカムパーティーでは南方医科大学の学生によるあたたかいおもてなしに、学生同士の友情も深まりました。

協定校学生受入 アジア3大学 口腔医学院 2015.7.27 ~ 31

南方医科大学 口腔医学院(学生6名・引率教員1名)、四川大学 華西口腔医学院(学生5名)、台北医学大学 口腔医学院(学生5名)が本学を研修訪問しました。

特別講義はすべて英語で行われ、研修の合間には本学の図書館の施設、附属病院では診療室などのほか、診療所見学として、河村歯科医院、佐古歯科医院、ABO 歯科クリニックを見学しました。

また、学生交流では、今年の夏に四川大学サマーキャンプに参加した5年生と南方医科大学 口腔医学院研修に参加した4年生の学生達が主体となって、ウェルカム・さよならパーティーを通じて、友情を深めました。



学生短期海外研修 シドニー大学 歯学部 2015.8.15 ~ 25



学生4名(3年3名・4年1名)が歯科保存学講座 岩田講師の引率で、シドニー大学歯学部を研修訪問しました。

研修内容は、特別講義・臨床見学を主体としたプログラムで、本学学生も積極的にディスカッションに参加しました。

海外の歯科事情に触れる貴重な経験となり、また、本学の学生とシドニー大学の学生達がウェルカムパーティーなどを通じて友情を深めました。

外国大学との交流 山西医科大学 学長訪問 2015.11.19

山西医科大学の段志光校長他5名が来校し、天満橋学舎西館7階共用会議室にて川添理事長・学長と会談しました。

引き続き、田中教務部長が本学のカリキュラム説明を行い、岡崎国際交流部長、方国際交流部委員の案内のもと、本学の附属病院の診療室などを見学しました。この会談を通じ、本学のアピールのみならず、さらなる日中友好の発展につながりました。



|| 平成 27 年度 子ども大学探検隊

『子ども大学探検隊』は学園都市ひらかた推進協議会に加盟する枚方市内の 6 大学のうち、開催を引き受けた大学と同推進協議会との共催で枚方市在住の小学生を対象に大学での講義や施設見学、実習体験、大学生との遊び等を通じて枚方市内に所在する大学に対し、親しみを感じてもらうことを目的として実施しているイベントであり、本学のほか、関西外国語大学、大阪国際大学の 3 大学で実施されています。

本学の『子ども大学探検隊：1 日歯科大学体験！』は藤原主任教授の指導のもと、学友会の有志学生が主体となり運営し 3 年目を迎えました。

本年度も例年同様、大学祭初日の 10 月 31 日（土）に開催され、定員の小学生 40 名のほか、付き添いのご家族も含めると 100 名近い方々が参加され、枚方市職員の挨拶、藤原主任教授による大学代表の挨拶（川添理事長・学長ご公務により代理として）、学生による講義と自身の指型の作製実習（定員の 40 名のみ）、大学祭巡り、とスケジュールに沿って進められました。

このイベントは、川添理事長・学長も地域貢献のみに留まらず、ご自身も小学生との触れ合いを楽しんでおられるようで、今回の欠席はもしや心残りではなかったかと察するところです。

講義は 3 年生の島岡毅君が講師を務め、虫歯についてクイズ形式の講義を行い親御さん達も参加し、和気あいあいの講義となりましたが、今年度の小学生は、例年に比べ活発な子供達が多く、「皆さんはお菓子好きですよ」の問いに対し「嫌〜い」「食べな〜い」の返事等々、最後の質疑応答に至っては島岡君の恋愛話に質問が集中し、答えに窮しタジタジとなる場面もあり、笑いも味もある内容でした。

指模型作製実習では、講義の時と一転、子供達が緊張の面持ちで、実習担当の学生の指示に従い作業を進め、完成後、作製物と自分の指を何度も見比べていた様子は少なからず感動しているようでした。

大学祭巡りでは、大学祭初となるミニ動物園でポニー、カピバラ等と触れ合い、模擬店の協力によりカラーボールすくいに興じ

るなど、子供達にとっては、最後に撮影した集合写真での笑顔が物語るように楽しい半日であったと思います。

最後に、今回の『子ども大学探検隊』も、有志学生諸君の講義、実習指導、案内誘導等全てにおいて、参加した子供達、親御様に対する心配りも申し分のないものであり、指導していただきました、藤原主任教授、学生の皆さん本当にお疲れ様でした。

今年度、協力いただいた学生の学年、名前は以下のとおりです。

コーディネーター：

4 年生 = 石原 里紗

3 年生 = 島岡 毅

スタッフ：

4 年生 = 岩田 有加、岡田 俊文、沖垣 舞、河田 文、西原 礼衣美、西村 達也、丸山 舞子、三上 正樹

3 年生 = 谷口 諒至、宮本 浩樹

2 年生 = 渡邊 優希

1 年生 = 朝野 有香、河野 真帆、新谷 真奈、間嶋 鈴音



|| 平成 27 年度 オープンキャンパス

平成 27 年度は、7 月から 9 月にかけて 4 回 [第 1 回：7 月 19 日（日）、第 2 回：8 月 1 日（土）、第 3 回：8 月 13 日（木）、第 4 回：9 月 27 日（日）] 開催し、参加者数は延べ 460 名（うち受験生等は 230 名）を数え、過去最高の入場者数となりました。特に第 2 回は、173 名（うち受験生等は 79 名）の方にご参加いただきました。

実施内容としましては、本学の入学試験概要説明、在学生による学生生活の説明、学生短期海外留学体験談、学内施設見学、実習体験、ミニ講義、個別相談会等を行いました。また第 3 回では天満橋学舎において、附属病院見学も含めたオープンキャンパスを実施し 80 名の参加がありました。



教授就任

就任された下記4名の先生のご略歴とご挨拶を掲載いたします。

解剖学講座	主任教授	竹村 明道	平成27年8月1日付
口腔解剖学講座	主任教授	田村 功	平成27年8月1日付
細菌学講座	主任教授	王 宝禮	平成27年8月1日付
口腔衛生学講座	主任教授	三宅 達郎	平成27年8月1日付



解剖学講座 主任教授

竹村 明道 たけむら あきみち

歯学博士 / 昭和26年7月14日生まれ

<学歴>

1978年3月	大阪歯科大学卒業
1978年5月	第63回歯科医師国家試験合格
1982年3月	大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了 歯学博士の学位を受領

<職歴>

1982年4月	大阪歯科大学助手(解剖学講座)
1996年4月	大阪歯科大学講師(解剖学講座)
1999年4月	大阪歯科大学助教授(解剖学講座)
2007年4月	大阪歯科大学准教授(解剖学講座)

教授就任ご挨拶

解剖学講座 竹村 明道

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会のご承認をいただき、平成27年8月1日付けで大阪歯科大学解剖学講座主任教授を拝命いたしました。今後ともよろしく願いいたします。

私は、昭和53年に大阪歯科大学を卒業後、直ちに大阪歯科大学大学院博士課程(解剖学専攻)に進み、解剖学講座でアクリル樹脂脈管注入法と出会い、その後37年間、解剖学の教育と研究に取り組んでまいりました。

まず、教育についてですが、解剖学講座が担当します学科目は、解剖学、組織学、発生学で、これら3学科の講義と実習を受け持っています。これら3学科は、他の学科目にとっても基礎となる学問であり、また、歯科医師にとって診療するにあたり最も重要かつ必須の知識であります。にもかかわらず、学生にとっては難解な科目であると考えられ、毎年、単位を取得できない学生がおります。彼らは、解剖

学を単に暗記の学問と考えているところに原因があると考えられます。解剖学は定義の学問であり、用語や基本的知識を理解しておれば必然的に次に進むことができます。基礎知識を理解せず、末端だけを暗記しても知識はすぐに抜けてしまいます。そこで、講義においては、基礎知識や総論に重点を置き、各種標本、模型、模式図を多用して、学生が理解しやすいように工夫しています。また、途中、小テストを行い、所定の点数に達しない学生を呼び出し、補講を行い、学生の学力の向上に努めたいと存じます。

実習では、特にご遺体を用いた人体解剖学実習におきましては、人体の構造に関する知識教育はもちろんのこと、前任教授でありました諏訪文彦先生同様、将来、生命科学に携わる良き歯科医師となるために、学生のメンタル面の教育に力を注ぎたく存じます。そして、人体解剖学実習を通じて、無条件、無報酬という献体の精神を、さらに生命の神秘さ、人間の尊厳さ、畏敬の念を学生に体得させていきたいと存じます。学生自らが剖出し、観察し、

体得した知識は学生の心に長くとどまります。このことを体験した学生にとって、ご遺体はまさに恩師となります。また、実習のラウンドごとに、知識の確認のためのラウンドテストを行い、所定の点数に達しない学生を呼び出し、放課後や夏休み等を利用して指導を行い、講義と同様、学生の学力向上に努めたいと存じます。

研究につきましては、解剖学講座が創設されて以来、67年間にわたって行われてきましたアクリル樹脂脈管注入法を研究手法とした研究をマクロ、ミクロの両面から継続していきたく存じます。特に前任教授が考案しました改良樹脂注入法は樹脂濃度や注入圧を一定に出来ることから再現性があり、この改良法を用いて、正常な状態の口腔内(舌、頬、口蓋など)の状況を再度観察していきたいと考えています。また、アクリル樹脂注入法自体に、さらに、客観性を高めるためいっそうの改良点があるのかを見いだしていきたいと考えています。また、アクリル樹脂鑄型標本は、標本として一旦作製されますと長期保存が可能なた

め、解剖学講座には過去に注入作製された動物の鋳型標本が多数蓄積されています。マウスやラット、イヌやネコなどの実験動物だけでなく、ライオンをはじめ、その他希有な動物の標本が保存されています。これらの各種標本を用いて、マクロの分野で、咬筋の層構造について調査したことがあり、食性の違いにより咬筋の層構造が異なること、すなわち草食動物では深層が、肉食動物では浅層が発達することを明らかにしました。また、ミクロの分野では走査電子顕微鏡を用いて舌乳頭の微細血管構築の観察をしており、多種の動物の舌乳頭をはじめ口腔諸器官を走査電顕で観察して比較解剖学的に研

究を進めていきたいと存じます。また、骨欠損など創傷治癒過程において、修復材料を運んでくるために、まず毛細血管が現れます。そして、それらが次第に成熟し、創傷が修復されてくる様相の観察にはアクリル樹脂微細血管注入法が最適です。今後は、損傷の程度や各種病変において、いくつかの条件を加えて修復過程の違いを観察していきたいと存じます。

NHKの取材を受けたこともあるこの歴史あるアクリル樹脂注入法を用いて、大阪歯科大学の名声、歯科医学の発展に貢献していきたいと存じます。

今後とも皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。教

授就任のご挨拶とさせていただきます。



口腔解剖学講座 主任教授

田村 功 たむら いさお

博士（歯学）／昭和40年2月24日生まれ

<学歴>

1989年3月 大阪歯科大学卒業
1989年5月 第82回歯科医師国家試験合格
1993年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
博士（歯学）の学位を受領

<職歴>

1995年8月 大阪歯科大学講師（生化学講座）
1999年4月 米国ペンシルベニア大学歯学部客員研究員（解剖・組織学講座）

教授就任ご挨拶

口腔解剖学講座 田村 功

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認をいただき、平成27年8月1日付けで大阪歯科大学口腔解剖学講座の主任教授を拝命いたしました。就任にあたり、皆様へのご挨拶とともに自己紹介と口腔解剖学講座における教育と研究活動に関する抱負を申し上げます。

私は平成元年に大阪歯科大学を卒業、次いで平成5年に同大学大学院歯学研究科博士課程（生化学専攻）を修了しました。それ以降、私が約21年間携わってきた学問は「歯科基礎医学（Oral Bioscience）」や「口腔科学（Stomatology）」と表せるように、多

様性があると考えます。またこの分野における教育は、生命現象全般の基本的原理と仕組みを理解するための基礎科学教育と、口腔組織を中心とする専門的先端的生命科学教育から成り立つと考えます。これらはそれぞれに分離されるものではなく、さらに形態学と機能学が密接に連携されて確立されるものでなければなりません。また、医療はさまざまな実用的技術によって支えられており、その多くは基礎研究によって生み出されたのは言うまでもありません。私は歯科医学教育に従事する者として、また平成18年度に多数の先生方から御指導を仰ぎながらカリキュラム作成に携わった本学カリキュラム委員会小委員会委員として、系統的歯科医学となる「基礎歯科医学に

立脚した臨床歯科医学」を追究し、口腔解剖学・組織学をその実現のための一手段とするという教育方針をたてます。これまでの講座単位による科目教育（講義）や研究に加えて、他分野との連携のもとで、口腔解剖学を含めた歯科基礎医学を、学生に理解・習得させることが肝要であると考えます。このようなことから私は、可能な限り口腔組織に関する広範囲な内容の講義・実習を行う予定です。さらに学生に対しては、単に「知識の伝達」だけでなく、口腔解剖学は言うに及ばず基礎科目が医学・歯学の登竜門であること、また医学や医療の発展において基礎研究活動が重要であることを1年生から理解させるとともに学生のモチベーションの向上と持続を心がけてまいります。

この結果として、口腔解剖学（基礎系歯科医学）を専攻する学生が1人でも多く誕生するよう努力します。さらに、CATOによるCBTや歯科医師国家試験の対策講義という歯学部学生にとって重要な講義については、学生のニーズに合わせて講座スタッフと連携して対処します。ところで、学生の育成は勉学だけでは不十分であることは言うに及ばないことです。私は本学学生の助言教員を3年間、そして第6学年特別アドバイザーを5年間務めさせていただいた経験を生かし、office hourを設定して、学年を問わず、学生と面談形式で歯科基礎医学教育または本学学生生活に対する相談に対応できる環境を整えます。そのことによって、学生に学習意欲をもたせることを目的として歯科基礎医学の面白さを伝えていくとともに、歯科基礎医学、歯科医療そして歯科医学研究に携わることの重要性、使命感、そしてやりがいなどをディスカッション・動機付けをして、主体

に努力する所存です。そのことで、伝統ある大阪歯科大学、ならびに伝統ある大阪歯科大学口腔解剖学講座の発展に貢献したいと考えております。皆様方におかれましては、今後とも御指導・御鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げます。

的に学習に取り組む志を持った学生を育てたいと考えております。またこのことを成し遂げることによって、私自身が本学教授として時代背景や社会背景による学生気質の変化に対応して、本学学生を教育面と生活面の両方からcareできるように努めます。

さて私は、本学大学院歯学研究科在学中に「腫瘍の悪性増殖過程における細胞外マトリックス成分の機能」というテーマで研究を遂行しました。大学院修了後、本学講師（非常勤）を経て平成7年に本学講師に就任して以来、口腔癌における細胞接着分子や骨格分子の発現様式を検索して口腔癌の分化度との関連性や口腔癌マーカーとしての可能性について検討してきました。その間の平成11年～12年に、アメリカ合衆国ペンシルベニア大学歯学部、解剖・組織学講座のProf. Edward J. Macarak's Labに留学して、機械的変形刺激を与えた口腔組織由来細胞株や平滑筋細胞株のMMP、EGR

transcription factor、またはCyr61 (CTGF)などの遺伝子やタンパク質の発現について検索しました。特にEGR transcription factorの核内での局在を検索するための蛍光標識による多重染色法における共焦点レーザー顕微鏡での観察・イメージ化は、データの信頼性を確立したと同時に組織・細胞免疫染色の重要性を再認識することとなりました。今後も、臨床に直結した基礎生命科学の研究内容の立案と、学部学生が将来において歯科基礎医学研究を希望できるような研究室環境の整備に着手します。特に、今後は講座スタッフとともに、歯や歯列の3D形態・構造データベース構築の確立、味覚発現機構に関する研究、そして歯周組織再生に最適なscaffoldの開発の研究を継続する予定です。

私は現在までの教育・研究経験を生かし、学生に「より近い距離」での教育向上に励みます。そして講座スタッフと共に「博愛と公益」の更なる実現

教授就任ご挨拶

細菌学講座 王 宝禮

私は、昨年2015年8月付で本学の細菌学を担当する教授に就任いたしました。一人ひとりのお名前を挙げるのでできないほど、多くの方々を支えられての就任であり、皆様には本当に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。そして今、本邦の歯学部を取り巻く厳しい状況から、責務の重さに身の引き締まる思いであります。

さて、私は、5年前に本学の「歯科医学教育開発室」に赴任させていただき、何度も大学教育関係の会合に参加させていただきました。リサーチマインドをもった臨床歯科医師の育成、自己問題解決能力の開発というようなことが今の歯科医学教育においての重要なキーワードとなっていると感じています。問題解決型自己学習システムの構築、ケーススタディ、チュートリアル教育がその方策の代表としてあげられます。本学においてもさまざまな手

法を教育として既に取り組んでおります。その中で、やはり基礎医学の学習は軽んじてはならないと思います。つまり、問題解決能力を育むためには、基礎医学の教育方針にも議論が必要です。重要な基礎事項を完全に理解し、それを応用できるようにすることが重要だからです。また、従来のように、教員が学生により多くの知識を伝授し、学生はそれを記憶するのではなく、学生に必要な知識を得る方法、扱い方をマスターさせることで、膨大な情報、知識を自分のものとして、問題解決に生かせるようになってもらいたいと考えています。これが、将来、リサーチマインドを持った臨床医としての資質として非常に重要になるのではないかと思います。しかし、教育というものは、教員が努力してもすぐにその効果が現れるかどうかわかりません。これから、試行錯誤しながらも、私たち、教員の想いが正しく学生に伝わり、学生自身のモチベーションが高まるよう努力を続けていきたいと思っています。

一方、この10数年間の中で特に歯



細菌学講座 主任教授

王 宝禮 おう ほうれい

博士（歯学）／1960年12月20日生まれ

<学歴>

1986年3月 北海道医療大学歯学部卒業
1986年5月 第79回歯科医師国家試験合格
1995年9月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了
博士（歯学）の学位を受領

<職歴>

1990年4月 北海道大学助手（予防歯科学講座）
1992年4月 米国フロリダ大学歯学部研究員（口腔生物学講座）
1996年2月 大阪歯科大学講師（薬理学講座）
2002年4月 松本歯科大学教授（歯科薬理学講座）
2010年4月 大阪歯科大学大学専任教授（歯科医学教育開発室）

学部教育は大きく変わりました。つまり、歯科医師になるためには、登竜門ともいえる「Computer Based Testing (CBT)、Objective Structured Clinical Examination (OSCE)」や「歯科医師国家試験（国試）」をターゲットとした教育が現実問題となりました。リサーチマインドを持った臨床医を育てる中で、この登竜門をいかにくぐるかも大きな課題です。そのため、ある面では、これらの試験対策のために、新しい発想で教育手法導入が必要であるとも思います。例えば、講義終了後に理解度の確認のための穴埋め問題や選択問題などを、放課後に教員の目の前で学習させ、自主学習を習慣化させる教育、あるいはこれを暗記、理解すれば、CBT、OSCEや国試に対応できるといった具体的な指導などです。また、このような教育手法の導入は、本学の歯科医学教育開発室時代に、大学教育においては決して容易ではないことを知りました。その理由は、大学生は、大人として成長しており、個性が確立しているため、教員や家族の介入が難しいことが少なくないからです。そのために、教員による教育の工夫が必要だと思ってきました。それは、「興味」だと思っています。その「興味」を引き出す教育とは、「教育と研究」がリンクすることだと思ってきま

した。

ところで、私が最初に着手した研究テーマは唾液の新しい生理活性の探求で、分子量約3,000という小さな唾液タンパク質ヒスタチンに注目し、1991年にヒスタチンが歯周病原菌の病原酵素活性を阻害する発見に至りました。その後、その発見が2006年の第99回の歯科医師国家試験に出題されたことを知ったときのその感動は忘れません。発見から14年後の出来事でした。それゆえ、私は、学生教育でその研究に注目した理由や発見の経緯に至るプロセスの苦労話や笑い話をし、実際に出题された国試問題を用いて細菌学を解説していきたいと思っています。「興味」を持ち覚えたものは記憶に定着していきます。一方、ときとして基礎医学は臨床から遠いものと思われがちなために、学生は敬遠しがちです。多くの歯学部生が臨床科に進むことから、例えば、実習で、私が確立した舌の粘膜細胞から歯ブラシによるDNA抽出法を用いて歯周病や齲蝕の遺伝子診断を行い、そこで、遺伝子学を解説していくことです。これらの研究と教育がリンクすることで、大学生は細菌学をより楽しく学べるはずです。そして、その結果、リサーチマインドをもった歯科医師が育っていくと思います。

現在、口腔をひとつの臓器として捉えたり、歯科医学を口腔生物学や口腔生命学として、学問体系が変化しつつある中で、ひとつの講座だけでなく、基礎講座と臨床講座が融合した口腔医学への発想が必要であると思います。各講座がCBT、OSCEや国試問題、研究に関して意見・情報交換をすることも、教育力、研究力の向上につながると思います。いずれの課題や目標につきましても、細菌学講座の先生方のお力をはじめ、皆様のお力添えなくしては達成できません。

これまで、基礎、臨床、教育畑で培った経験を今後も大阪歯科大学の発展、歯科医療、歯科医学の発展に貢献できるよう努めてまいりますので皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



口腔衛生学講座 主任教授

三宅 達郎 みやけ たつろう

歯学博士 / 1957年11月10日生まれ

<学歴>

- 1983年3月 大阪歯科大学卒業
- 1983年5月 第73回歯科医師国家試験合格
- 1987年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科博士課程修了
歯学博士の学位を受領
- 2005年3月 京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻専門職学位課程修了
社会健康医学修士（専門職）の学位を受領

<職歴>

- 1987年4月 大阪歯科大学助手（口腔衛生学講座）
- 1996年5月 大阪歯科大学講師（口腔衛生学講座）
- 2007年4月 大阪歯科大学准教授（口腔衛生学講座）
- 2013年4月 京都市保健福祉局保健衛生推進室保健医療課歯科保健係長
- 2015年4月 梅花女子大学看護保健学部口腔保健学科教授

教授就任ご挨拶

口腔衛生学講座 三宅 達郎

大阪歯科大学主任教授会の選出および法人理事会の承認をいただきまして、平成27年8月1日付けで大阪歯科大学口腔衛生学講座主任教授を拝命いたしました。

皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

私は、昭和58年に大阪歯科大学卒業後、本学大学院を経て、昭和62年から26年間、口腔衛生学講座に奉職させていただきました。平成25年からは京都市保健福祉局、平成27年からは梅花女子大学看護保健学部勤務いたしておりましたが、この度、再び本学に戻ってまいりました。本学のキャンパスの土を踏み、教職員の方々や学生さんの顔を拝見するたびに、「やはり母校はいいな」と実感する毎日でございます。

京都市では、口腔保健支援センターの設置という新規事業などに携わり、事業の立案、予算の確保、各種団体との調整、労使交渉、議会対応など、大学では学べない貴重な経験をさせていただきました。また、保育園、障害者施設、高齢者施設といった現場に出向

き、口腔保健事業を通じて、多くの施設職員や市民の方々と接し、また語り合い、共汗、すなわち共に汗をかくことを学ばせていただきました。さらに、梅花女子大学では、他学部の教職員との交流を通じて、学生本位の教育とは何かを論じながら、さまざまな教育手法を修得してまいりました。

実は、平成15年から2年間におきましても、京都大学で社会健康医学を学ばせていただく機会を与えていただいております。さまざまなバックグラウンドを持つ研究者と議論しながら、疫学・統計学の基礎、臨床疫学の重要性をはじめ社会医学全般について幅広く学ばせていただきました。

このように、学外で、さまざまな人と出会い、貴重な経験をし、多くのことを学んだことは、私にとって大きな財産となっております。

26年間の本学での教員としての経験を土台として、その上に、京都市、梅花女子大学、京都大学で学んだことを積み重ね、生かしながら、これから大阪歯科大学での教育、研究に精力的に取り組んでいく所存です。

まず、私に課せられた最重要課題は教育であると認識しています。

現在、歯科医療や歯科保健が直面し

ている「2025年問題」「歯科医療の需給問題」「歯科と医科をはじめとする多職種との連携」「医療・介護・保健の一体化」など数多くの課題は、口腔衛生学が中心となって解決していかなければならないものばかりです。また、口腔衛生学は、難関の歯科医師国家試験においても、関連する問題が年々増加し、合否のカギを握る科目となっています。次代を担う歯科医師の育成には、しっかりと口腔衛生学の教育が不可欠であります。しかし、口腔衛生学の領域は、臨床や地域における口腔疾患の予防、健康の保持増進といった狭義の口腔衛生学だけでなく、衛生学・公衆衛生学、社会学、統計学、行動科学、医療経済学などの学問およびそれらに関連する社会保障制度や法律まで包含した大変幅広い学問体系になっています。残念ながら、現状では、多くの学生にとって複雑で難しい科目になっています。学生が理解しやすいように、複雑に絡み合った内容を一旦単純化して教示し、その後再びそれらを統合させて教育するといったきめ細やかな講義が必要であると考えています。また、口腔衛生学は、施設、学校、職場、臨床等の現場で実践する応用歯学であることから、現場を想定した教

材が、教育効果を高めると考えており、私が行政で経験した生きた教材を用いた口腔保健の現場に則した教育を実施してまいります。

大学院生教育については、各大学院生が自分自身の志や興味に沿った研究ができるよう、質的研究手法から分子生物学的手法まで、幅広い研究方法の指導ができる環境を整備するとともに、研究のための研究にならないよう、研究マインドの育成に努めてまいります。また、国際的視野を持った人材の育成のため、海外留学への積極的な支援を行い、歯学や歯科医療に役立つ多彩な人材を育成してまいります。さらに、他講座の大学院生に対しても、データ処理や統計解析に関する相談に応じることにより、本大学の研究力アップに、甚だ微力ではございますが貢献したいと考えております。

もう一つ、私に課せられた重要課題は、研究であります。

私にとって、基礎研究と疫学研究は、

研究の両輪であり、基礎研究で得た知見を疫学研究で検証し、さらに、疫学研究で得た知見を再び基礎研究で検証していくといった、両研究を相互にフィードバックさせる研究手法を用いて、現在まで研究を進めてまいりました。これからも、人々の口腔の健康の保持増進のため、基礎研究と疫学研究を並行させながらオーラルヘルス研究をさらに推進していく所存ではありますが、今後は、とくに次に示す研究テーマについて精力的に取り組んでまいりたいと考えております。

まず、1つ目は、大規模コホート研究への参画であります。医学領域における疫学研究では、エビデンスレベルの高いデータを取得するため、数万人を対象とした大規模コホート研究が多く展開されておりますが、現在、さらに多くの有効なエビデンスを創出するため、大規模コホート研究への歯学研究者の参画が求められています。今後、このような機会を逃さず大規模コ

ホート研究へ積極的に参画し、遅れている歯科領域の疫学研究を進展させるとともに、口腔の健康と全身の健康との関連性をより明確にしていきたいと思います。

2つ目は、歯科における臨床疫学研究の基盤づくりであります。臨床疫学は、臨床現場でのさまざまなデータからエビデンスを創出し、EBMを確立していこうとする研究ですが、歯科においては、アウトカムへの歯科医療技術の影響が大きすぎるなどが妨げとなり、臨床歯科医師の意思決定に貢献できるエビデンスが生み出せていないのが現状であります。臨床疫学を発展させるためには、臨床疫学に参加していただける臨床歯科医師のご協力が不可欠であります。全国でも有数の患者数を誇る大阪歯科大学附属病院の諸先生方、また、全国の大阪歯科大学卒業生の諸先生方のご指導、ご協力をいただきながら、臨床疫学が実施できる基盤づくりを行い、少しでも多くの歯科臨

床に役立つエビデンスを創出してまいります。歯科の臨床疫学を推進していくことは、歯科医師として疫学と深く関わった私に与えられた義務であり、天命であると思っております。

3つ目は、行政と連携したパブリックヘルス研究の推進であります。行政で実施されている乳幼児から高齢者までの生涯を通じた口腔保健事業を評価するとともに、得られたデータから、より効果的な施策を提案したいと考えております。また、団塊の世代が、すべて75歳以上の後期高齢者となる2025年までに、介護は、施設から在宅へ大きく舵が切られることから、行政は、地域で介護を支える「地域包括ケアシステム」の構築が急務となっております。地域包括ケアシステムにおける歯科の役割を明確にするとともに、歯科的アプローチによる認知症対策プログラムの構築にも着手してまいりたいと考えております。

母校を離れておりました2年余りの間、私が何とか奮闘できましたのも、同窓の先生方のご支援と本学のブラン

ド力、すなわち、社会全体の本学への厚い信頼感があつたお蔭であり、母校の「ありがたさ」や「すばらしさ」を改めて実感しているところであります。母校への御恩に報いるためにも、私が今まで培ってきたすべてを本学の教育、研究に捧げ、母校の発展に少しでも貢献できるよう努めてまいります。今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒お願い申し上げます。

8 / 6 (木) 附属病院 平成 27 年度 医療機器安全管理講習会

16:30 ● 8 月度

演題：「デンタルユニットから見る歯科医療の安全性と世界基準のインフェクションコントロール」

11/13 (金) 講師：櫻井 修次氏（株式会社ジーシー 開発企画部 機器企画課）

16:15

歯科用ユニット EOM REGALO（イオム レガロ）についての説明会を開催し、EOM REGALO（イオム レガロ）の先進性、多様性、衛生性について講習を行った。点を強調された。最後に医療安全管理委員会委員長の有田憲司教授より櫻井氏のご講演に感謝の言葉が述べられた。

12/8 (火)

16:30

安全かつ効率的な治療をサポートできる点とチェアの間隙に患者の手足が挟まらない工夫が施されている

● 11 月度

演題：「研削・切削材製品を安全にご使用いただくために」

講師：川村 政道氏（株式会社松風 技術部 品質保証課 課長）

出席者数：教職員 47 名

松風の研削・研磨システムの講習会を開催した。医療安全管理委員会委員長の有田憲司教授より川村政道氏のご紹介をいただき、松風の品質保証・品質管理について説明が行われた。

松風の「創造的な企業活動を通じて世界の歯科医療に貢献する」という経営理念のもと品質検査を徹底している点を強調され、製品の使用方法とコツ、研削材

の滅菌消毒法の紹介をされた。

また、これまでに製品が破損した事例を検証したところ、製品の使用者側に問題がある場合が多数あることがわかった。安全に研削・切削材製品を使用するためには、必ず使用説明書を読むこと、製品の制限回転速度を守ることなど改めて再認識する機会となった。

● 12 月度

演題：「新ビューワーソフトウェアの機能・操作説明」

講師：森田 義典氏（株式会社モリタ製作所 技術企画 1 課）

萬田 眞規子氏（株式会社モリタ マーケティング部 2 グループ）

出席者数：教職員 50 名

はじめに、森田義典氏よりモリタ製作所の沿革が述べられた。低被曝でありながらデジタル写真並みの解像度を持つ CBCT の製作を常に目指されている点を強調された。医療従事者も患者さまの負担を少しでも軽減するために、CT 撮影をする際はできるだけ線量を低くし、撮影領域も小さくするよう心掛けなければならない。

萬田眞規子氏からは新ビューワーソフトウェアの機

能・操作説明をしていただいた。新しい総合画像処理ソフトは、2 次元および 3 次元画像が持つ多くの情報を効率よく容易に引き出すことができ、患者様へ説明する際にも大変便利である。会場からは活発に質問が飛び交った。

8 / 25 (火) 附属病院 平成 27 年度 医療安全講習会

16:00 ● 8 月度

演題：「ヒューマンエラーと安全管理」

12/10 (木) 講師：上野 晃弘氏（JR 西日本 安全推進部 専門課長）

16:00

ヒューマンエラーの発生のメカニズム、分析、対策を、主に人間の認知・行動特性を踏まえた心理学的空間について講習を行った。

12/17 (木)

16:00

人間はエラーを犯すものであり、ヒューマンエラーの発生は避けることができないことを強調された。『エラー撲滅』から『エラーとの共存』へと発想を転換

し、それを実践する手法として CRM（Crew Resource Management）を紹介され、航空・鉄道業界のヒューマンエラーに対する訓練、取り組みについて述べられた。

最後に医療安全管理委員会委員長の有田憲司主任教授より上野氏のご講演に感謝の言葉が述べられた。

● 12 月度

演題：「苦情対応のポイント」 損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社（DVD 講習）

出席者数：教職員 82 名（平成 27 年 12 月 10 日）、58 名（平成 27 年 12 月 17 日）

医療安全管理委員会委員長の有田憲司主任教授の開
会ご挨拶のあと、DVD による医療機関向けの苦情対
応講習を行った。最新の医療安全の動向やクレーム対
応、医療従事者が知っておきたい裁判事例などが説明
された。医療従事者と患者さまの見方・捉え方の違い、

コミュニケーションのズレが苦情の原因になることが
多い。患者さまに診察内容を一方的に伝えただけで安
心するのではなく、必ず患者さまに何が伝わったのか
を確認することが重要である。

8 / 27 (木)

附属病院 平成 27 年度 院内感染対策講習会

16 : 00

● 8 月度

演題：「標準予防策と経路別予防策～歯科診療における職業感染対策～」

10 / 1 (木)

講師：三枝 輝子氏（ハリヤード・ヘルスケア・インク）

16 : 00

院内感染防止委員会委員長である山本一世副病院長
より、ご挨拶並びに講師紹介をいただき講習会が開催
された。歯科診療の感染を未然に防ぐために、医療従
事者の个人防护具の種類及び着脱について講習を行っ
た。

標準予防策と感染経路別予防策、特定の菌やウイル
スの曝露リスクについて解説された。曝露リスクに応
じた个人防护具の選定及び正しい着脱をしなければ、
役割を十分に発揮することができない点を改めて再認
識した。

12 / 3 (木)

16 : 00

● 10 月度

演題：①「飛沫感染対策について」三木 俊明氏（ファイザー株式会社）

②「インフルエンザ予防接種について」福澤 美智子 看護師主任（ICT）

出席者数：教職員 63 名

三木俊明氏からはインフルエンザとノロウイルスの
歴史・構造・分布・症状に触れながら、飛沫感染予防
策をわかりやすく解説していただきました。医療ス
タッフであるからこそ、感染経路を断つこと・予防接
種を受けること・免疫力を高めることが大切である点
を強調されました。

福澤美智子看護師主任からはインフルエンザワク
チン予防接種の必要性について説明していただきま
した。本院教職員のワクチン予防接種率が昨年は
56.2%と約半数であったことから、今年は流行前の
ワクチン予防接種を積極的に受けていただくよう要請
がありました。

● 12 月度

演題：「針刺し・切創対策について」

講師：三木 俊明氏（ファイザー製薬）、口腔外科学第一講座 松本 和浩 講師（ICT チームリーダー）

三木俊明氏より医療事故防止の危機管理について講
演が行われた。安全な医療を提供するために、部門の
壁を乗り越えて意見をかわせる職場づくりが大切と述
べられた。指示や報告は一方通行の連絡になりがちな
ため、相互間の会話に切り替えることで医療事故防止
に繋がる。事故や感染を防ぐには、医療スタッフ一人
ひとりが自身の健康管理に万全を期すことは言うまで

もない。

ICT チームリーダーの松本和浩先生からは、全国各
地の私立歯科大学附属病院での針刺し・切創の発生件
数や対応等の現状が報告された。また、今年 7 月に
本学教職員及び学生に対し実施した「写真を用いた感
染対策意識調査」の取り組みと解答が説明された。



取り組み

第 23 回大阪歯科大学公開講座（天満橋講座）

「近未来の歯科治療 デジタルデンティストリー」

第 23 回大阪歯科大学公開講座（天満橋講座）「近未来の歯科治療 デジタルデンティストリー」が 9 月 5 日、12 日（ともに土曜）の 2 日間、午前 10 時から正午まで、創立 100 周年記念館大講義室において開催されました。

[講座 1] デジタル化によって変わる歯科治療—快適な歯科治療と安全な装置の提供を目指して—

9 / 5 (土)
10 : 00

大阪歯科大学 歯科審美学室 末瀬 一彦 教授

本学歯科技工士専門学校校長でもある、歯科審美学室の末瀬一彦教授が、「デジタル化によって変わる歯科治療—快適な歯科治療と安全な装置の提供を目指して—」と題し、歯科医療のデジタル化が、患者さんにより安全・安心で信頼できる治療の提供を可能とし、すでに 臨床応用されている新しい歯科診療システムや、CAD/CAM システムを用いた歯科技工物の製作法についてお話ししました。



[講座 2] デジタル化によって変わるエックス線診断と安全性・利便性

9 / 12 (土)
10 : 00

大阪歯科大学 歯科放射線学講座 四井 資隆 講師

歯科放射線学講座の四井資隆講師が、「デジタル化によって変わるエックス線診断と安全性・利便性」をテーマに、「デジタル」とはなにか、また最新の歯科用撮影装置を用いた画像診断について、時折ユーモアを交えながら、わかりやすく解説しました。



9 / 19 (土)
9 : 00

大学行事 平成 27 年度 第 6 学年父兄会

平成 27 年度の第 6 学年父兄会は、平成 27 年 9 月 19 日（土）に、本学天満橋学舎創立 100 周年記念館にて行われ、ご父兄 56 組が参加されました。本学からは、川添理事長・学長、田中教務部長、田中学生部

長、梅田学年指導教授をはじめ関係各位が出席し、学内報告などを行い、引き続き特別アドバイザーによる個別面談を実施しました。

10 / 18 (日)
9 : 00

大学行事 平成 27 年度 地方父兄会（兵庫県）

平成 27 年度の地方父兄会（兵庫県）は、平成 27 年 10 月 18 日（日）に、神戸市の三宮研修センターにて行われ、ご父兄 16 組が参加されました。本学からは、川添理事長・学長、田中教務部長をはじめ、関

係各位が出席し、学内報告などを行い、引き続き個別面談を実施しました。

10 / 24 (土)
13 : 00

イベント 平成 27 年度 体育祭、第 47 回 大学祭（楠葉祭）

平成 27 年 10 月 24 日（土）に体育祭を牧野学舎にて、また 10 月 31 日（土）、11 月 1 日（日）に、大学祭（楠葉祭）が楠葉学舎にて開催されました。学友会、体育会メンバーの活躍もあり、活気ある大学祭となりました。

また楠葉祭 1 日目には、枚方市子ども大学探検隊を同時開催し、枚方市内の小学生 40 名とその保護者の方が参加しました。

10 / 31 (土)
～
11 / 1 (日)



10/30(金) 大学行事 平成27年度解剖体遺骨返還式

14:00 平成27年度解剖体遺骨返還式は楠葉学舎5号館3階大会議室において執り行われ、式の初めに、歯科医学教育の為、自らの身体を提供された故人の皆様の御霊に対し、参列者一同ご冥福を祈り黙祷が捧げられました。

川添理事長・学長より故人とご遺族への感謝の言葉が述べられ、参列のご遺族お一人おひとりに感謝状を贈り、ご遺骨が丁寧に返還されました。最後に解剖学講座 竹村主任教授より謝辞が述べられ、滞りなく終了しました。

11/7(土) 地域連携 ひらかた市民大学2015

11:00 11月7日(土)、楠葉学舎にて「ひらかた市民大学2015」(市内6大学との連携による講座)が開催され、歯科審美学室の末瀬一彦教授が9月の公開講座に続き、「デジタル歯科治療で美しい口もとを…」をテーマに講演しました。

技術のデジタル化が、苦痛の少ない安全・安心な治療の提供を可能とし、健康で美しい口もとを回復するための審美修復の方法や歯科材料について、市民の皆様にはわかりやすく解説しました。

はじめに、欠損のない歯列(28本)と安定した噛み合わせの確保の大切さをお話しし、歯科治療や技工

11/20(金) 大学行事 平成27年度実験動物慰霊祭

13:30 平成27年11月20日(金)午後1時30分より実験動物慰霊祭が楠葉学舎 講堂にて執り行われた。

学部生が焼香を行い、動物たちの霊に感謝の意が捧げられた。

秋晴れの中、教職員・大学院生・学部生が参列し、清岸寺導師の読経が響き、慰霊祭が始まった。

最後に川添学長より、歯科医学教育・研究のために身を捧げた動物たちの冥福を祈る、慰霊の辞が述べられ、参加者一同、改めて冥福を祈った。

川添堯彬学長の代表焼香に続いて教職員・大学院生・

11/20(金) 取り組み 平成27年度自衛消防訓練

15:00 11月20日(金)、楠葉学舎では枚方東消防署の協力を得て、防災・防火訓練を実施し、教職員、第3学年学生など約200名が参加しました。



内容は、「南海沖にて震度6強の地震が発生した」との設定で、緊急地震速報を想定した避難訓練を行い、また、地震によって発生した火災(出火場所は食堂)も想定し、各部局等で組織する自衛消防隊を中心に、避難誘導、安否確認、傷病者搬送、初期消火訓練として水消火器による消火訓練、屋内消火栓を用いた放水訓練を行うとともに、防災センターでは消防署への通報、施設点検の訓練等を行いました。



天満橋学舎では、11月12日(木)に夜間の火災を想定した訓練、11月24日(火)に自衛消防訓練を実施し、牧野学舎では、12月1日(火)に噴水前グラウンドおよび歯科衛生士専門学校にて自衛消防訓練を実施しました。

12/4(金) 附属病院 平成27年度医療事故防止のための相互チェックについて

10:00 場所：大阪歯科大学附属病院

チェック校：徳島大学病院(チェック責任校)2名、昭和大学歯科病院(チェック校)2名

相互チェック項目表を基に書類審査が行われ、院内ラウンド調査が実施された。

最後に覚道健治病院長より、チェックに対する謝辞が述べられ、医療安全のために指摘事項等を関係委員会等で検討し改善に努めると回答された。

チェック校各担当者より講評、指摘事項をいただき、質疑応答を行った。

12 / 4 (金)

附属病院 平成 27 年度 文部科学省 医学教育等関係業務功労者の表彰について

医学教育等関係業務功労者は、医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等の補助的業務に関し顕著な功労のあった場合、表彰され文部科学大臣が表彰状及び副賞（銀杯）を授与する。

本学からは、藤林由利安（歯科衛生士主任）と入江隆子（看護師主任）の 2 名を推薦し、12 月 2 日（水）に文部科学省 3 階講堂で表彰式が行われた。

また、12 月 4 日（金）には、病院長室で功労者表彰報告が行われた。



12 / 28 (月)

大学行事 平成 27 年 教職員忘年慰労会

15 : 00

年末恒例の教職員忘年慰労会が附属病院本館 14 階プラザフォーティーンで開催され、当日は 147 名の教職員が参加しました。

川添理事長・学長の開会の挨拶と教職員への 1 年間の労いの言葉の後、下村常務理事の乾杯の音頭により忘年慰労会が始まりました。

しばしの歓談の時間が続き、参加者みなさんお待ちかねのお楽しみ抽選会が行われました。理事長賞（旅行券）が臨床検査技師の川原幹夫検査技師長、学長賞（商品券）が解剖学講座の戸田伊紀講師、図書カードが口腔病理学講座の岡村友玄助教ほか 2 名の教職員に贈られました。

その後、田中常務理事からの閉会の言葉により、1

年間を振り返ってのさまざまな感慨と、次年への新たな意欲とともに、忘年慰労会が締めくくられました。



学位・博士（歯学）授与報告

大西 吉之 乙第 1594 号 平成 27 年 6 月 24 日

Measurement of interspaces after filling bone defects with different sizes of β -tricalcium phosphate granules-Comparison between experimental animals and defect models- (骨欠損に大きさの異なる β -TCP 顆粒を填入したときの顆粒間隙の計測 一実験動物と骨欠損モデルとの比較一)

安光 秀人 乙第 1595 号 平成 27 年 6 月 24 日

Microvascular formation in interspaces with different sizes of β -tricalcium phosphate granules used to fill bone defects (骨欠損に大きさの異なる β -TCP 顆粒を填入したときの顆粒間隙と新生血管形成)

山田 裕 乙第 1596 号 平成 27 年 6 月 24 日

Effects of different surgical procedures on the pharyngeal space with mandibular prognathism (骨格性下顎前突症患者における顎矯正手術法の違いが咽頭気道形態に与える影響)

田隅 聖美 乙第 1597 号 平成 27 年 6 月 24 日

Morphological changes in the pharyngeal airway space following orthodontic treatment of skeletal open bite (骨格性開咬の矯正歯科治療による咽頭気道の形態学的変化)

杉本 淳 乙第 1598 号 平成 27 年 6 月 24 日

Effect of a protease-containing tablet with rough surface on the number of bacteria on the tongue (プロテアーゼ含有凹凸タブレットの舌背上細菌数低減効果)

中井 政徳 乙第 1599 号 平成 27 年 6 月 24 日

Changes in immunoglobulin A secretion induced by sympathetic and taste stimulation in the rat submandibular gland (ラット顎下腺に対する交感神経刺激および味覚刺激による SIgA 分泌量の変化)

森下 愛子 乙第 1600 号 平成 27 年 9 月 18 日

A histological study of mineralised tissue formation around implants with 3D culture of HMS0014 cells in Cellmatrix Type I -A collagen gel scaffold in vitro (Cellmatrix Type I -A コラーゲンゲルスキャホールド内でインプラント体とともに三次元培養した HMS0014 細胞の硬組織形成に関する組織学的研究)

野津 繁生 乙第 1601 号 平成 27 年 12 月 22 日

Influence of Light Curing Energy on Dentin Bond Strength (照射エネルギーが接着強さに与える影響)

陳 以文 乙第 1602 号 平成 27 年 12 月 22 日

A study of Steiner cephalometric norms for Chinese children (Steiner 分析を用いた中国人(台湾)学童期の標準値についての研究)

|| 平成 27 年 秋の叙勲受章者

平成 27 年秋の叙勲において、大阪歯科大学関係者として、以下の先生方が受章されました。

	(支部)				(支部)		
大学 10 回	森川 勝	大阪府	瑞宝双光章	大学 13 回	土居 桓治	奈良県	旭日双光章
大学 11 回	伊藤 義宏	東北	旭日双光章	大学 16 回	福田 滋	京都府	旭日双光章
大学 11 回	岡崎 正	滋賀県	瑞宝双光章	大学 18 回	川野 敏樹	大阪府	旭日双光章
大学 11 回	宮井 亨	徳島県	瑞宝双光章				

|| 寄贈

下記の通り寄贈を受けました。心より感謝いたします。

1. 大阪歯科大学専門 30 回卒業生（みとわ会） | 卒業 65 周年を記念して | 学術研究への寄附として 300,000 円也
(平成 27 年 10 月 30 日)
2. 大阪歯科大学第 33 回卒業生（燦美会） | 卒業 30 周年を記念して | 学術研究奨励資金として 300,000 円也
(平成 27 年 11 月 24 日)

|| 追悼

欠損歯列補綴咬合学講座（旧：歯科補綴学第三講座）の初代教授で名誉教授の三谷春保先生が平成 27 年 8 月 11 日に 95 歳でお亡くなりになりました。48 年前、本講座を立ち上げ、20 年間教授職として講座の発展に寄与されました大変大きな存在であり、悲しみに耐えません。

先生は 1920 年京都府にお生まれになり、1941 年大阪歯科医学専門学校をご卒業。その後、助教授を経て 1967 年大阪歯科大学歯科補綴学第三講座教授に就任されました。そして、1987 年大阪歯科大学名誉教授に、また同年、明海大学歯学部客員教授になられました。その間、第 19 代日本補綴歯科学会会長を務められ、また内外の雑誌に多くの論文を投稿され、多くの教員ならびに大学院生

をご指導になられました。先生は咀嚼筋 EMG の分析法を確立され、局部床義歯の形態、支持形式に新たな解釈をお与えになられました。代表的な著書として多くの歯科医師や学生に支持されました『最新歯科補綴アトラス（1970）』『ワンピースキャストパーシャル—その臨床と技工（1978）』『続最新歯科補綴アトラス（1978）』『歯学生のパーシャルデンチャー（1979）』等がございます。また、半調節性咬合器コスマックス MY-III 型の開発者でも在られます。

本講座では 8 月 29 日（土）午後 6 時 30 分より教室の同窓会が開催されます折りに、理事長・学長川添先生を始め多くの先生方のご出席の下、三谷先生をお偲び致しました。



歯科補綴学分野における世界の第一人者で在られました先生の多大なる功績に敬意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌

大阪歯科大学 欠損歯列補綴咬合学講座
教授 岡崎定司

|| 人事

教員採用

口腔衛生学講座 主任教授 三宅 達郎
H.27.8.1 付

昇任

細菌学講座 主任教授 王 宝禮
解剖学講座 主任教授 竹村 明道
口腔解剖学講座 主任教授 田村 功
以上 H.27.8.1 付
小児歯科学講座 講師 園本 美恵
総合診療・診断科 講師 樋口 恭子
以上 H.27.10.1 付

大学院教員任用

大学院教授 竹村 明道
王 宝禮
以上 H.27.10.1 付

職員採用

図書課 附属病院
人事課
インスティテュショナル・リサーチ (IR) 室
病院庶務課庶務担当

職員登用

大学庶務課
附属病院

事務職員 伊藤さよ子
看護師 下岡 美美
以上 H.27.7.1 付
事務職員 鈴木絵理子
事務職員 田中 貴久
事務職員 武居 正悟
以上 H.27.8.1 付
看護師 大工 知花
H.27.10.1 付

事務職員 橋本 照美
H.27.8.1 付
薬剤師 竹村 薫
H.27.9.1 付

依頼退職

口腔衛生学講座 附属病院 小児歯科	准教授 看護師 病院医員 以上	川崎 弘二 井上 綾子 吉田 訓子 H.27.7.31 付 香川紗理子 H.27.9.30 付 安西 珠希 H.27.10.31 付 村尾 有紀 H.27.12.31 付
附属病院	歯科衛生士	
学生相談室カウンセラー	臨床心理士	
附属病院	看護師	

委嘱

教務部委員会委員	竹村 明道, 三宅 達郎 以上	田村 功 H.27.8.12 付
図書資料選択委員会委員	川島 涉, 以上	合田 征司 H.27.9.9 付

学生部委員会委員	竹村 明道, 以上	田村 功 H.27.8.12 付
学内食堂管理運営委員会委員		土居 貴士 H.27.8.12 付
ブラッシュアップ委員会委員	鎌田 愛子, 李 嘉永 以上	土居 貴士 H.27.8.12 付
第六学年 特別アドバイザー	鎌田 愛子, 以上	神 光一郎 H.27.8.12 付
講師(非常勤)委嘱 歯科技工士専門学校講師(非常勤)	田村 功, 川島 涉 以上	三宅 達郎 H.27.10.1 付

|| あとがき

今号の特集でお伝えしたのが、本学の大きな特長の一つでもある国際交流です。在学生たちが語学力の向上はもちろん、海外の歯科医療現場に触れることで、知識・技術だけでなく、人間性も大きく成長して帰国します。

日本でも古くから数多くの人たちが世界に学びのチャンスを探求しました。

そんな海外留学を体験し、日本における女子教育の先駆者として知られるのが、津田梅子という人物です。明治初期、日本の近代化のためには女性が教養を身につけ、賢母を育成することが必要と考えられ、岩倉使節団に随行してアメリカへの女子留学生が募集されました。その女子留学生の一人が、津田梅子でした。当時、彼女はわずか6歳。幼い子どもの目に映る異国の世界は、どのようなものだったのでしょうか。見るものすべ

てが新しく、刺激と好奇心に満ち溢れていたのかもしれませんが。海外での生活・文化を全身で吸収した彼女は、日本の女性の教育、地位確立に大きな役割を果たしました。

時代は変わっても、今も学生たちは異国の地でより広い視野と知識・技術、人間性を磨きたいと願います。本学ではそんな学生たちの想いに少しでも応えるため、さまざまな国際交流のチャンスを用意しています。学内や国内とは異なる歯科医療の数多くの知識・技術が、そこにはあります。そして、その経験は人間としての大きな成長にもつながります。

本学では、今後も学生たちの願いに応えるとともに、高い技術・知識・人間性を持つ医療人の育成のため、国際交流にさらに尽力・注力してまいります。

大阪歯科大学広報 第 175 号

2015.07.01 ~ 2015.12.31

発行日 平成 28 年 3 月 31 日
編集発行 大阪歯科大学広報委員会
〒 573-1121
枚方市楠葉花園町 8-1
TEL 072-864-3111
